

# 志す宇宙は無限 5月号

発行：楠葉高等学校 宇宙部

## 令和六年度 6名でスタート!

令和6年度より1年生2名が新メンバーとして加わり、部員は1年生2名、2年生3名、3年生1名の計6名でスタートした。新入部員の末利仁さん(岡山県出身)と佐久間大輔さん(福井県出身)は、中学生のときには宇宙技術部に所属し、経験や知識が豊富なため即戦力となりそう。末利仁さんは「3Dプリンタやプログラミングを中心に学び、缶サットの製作を頑張る。少数精鋭だからこそできることもたくさんある。宇宙部のシリウスになりたい。」と笑顔で語った。米満恭平部長は「新入部員が毎年入ってくれてうれしい。一人だった時が嘘みたい。久しぶりに3学年揃い、引継ぎもうまくいきそう。全国に宇宙部の名を広められるように活気づけていきたい。」と話した。

今年度も「やりたいことは全部やる」のスローガンのもと、缶サット甲子園全国優勝を目指してチーム一丸で活動していきたい。



↑高校宇宙部の6名 @部室にて

## 部長交代のご挨拶

受験勉強に専念するため、5月いっぱいまで宇宙部部長を退任させていただくこととなりました。本当に多くの方々から温かいご指導を賜り、常に一生懸命で努力を続ける素晴らしい部員に助けられながら、この3年間を過ごしてきました。この宇宙部での思い出を振り返ってみると色々なことを思い出します。私が1年生のときに3年生が引退して以降、部員はゼロ。私一人で何ができるのか。まずはこの宇宙部の存在を多くの人に知ってほしいという想いから、本紙「志す宇宙は無限」の執筆をスタートしました。宇宙の面白さを多くの人に知ってもらい、興味関心から宇宙部に入部したい人が出てくるのではないかと信じ、毎月欠かさず発行を続けてきました。



一人で活動を続けて10か月後の4月。1年生が入学して、各部活動は新入部員獲得に向けて全力で部活動勧誘をします。私も負けずに新入部員獲得を目指しました。無事に待望の新入部員3名が入部してくれました。4名で再スタートした宇宙部。まずは文化祭に向けてはやぶさ2の実寸大模型を作ったり、モデルロケットを作ったりしました。

缶サット甲子園の出場を目標に、4人でワークショップに参加するなど缶サットの作り方を一から勉強してきました。うまくいかないこと、大変なことも多かったです。が、部員同士で何とか解決し、無事に缶サット九州大会を勝ち抜き、全国大会出場を遂げることができました。宇宙だけの知識を得るだけでなく、様々な方々と出会い、多くの経験をさせていただきました。



今後後輩たちが本紙の発行を引き継いでくれるかはわかりませんが、壁新聞を通して、宇宙に少しでも興味関心をもってもらいたいです。

今後、この宇宙部での経験を糧に受験勉強、その後の進路実現に全力で取り組んでいきたいと思えます。これまで支えてくださったすべての皆様に感謝しています。本当にありがとうございます。

6月からは片山颯達が、私の後任として部長に就任します。これまでの経験を活かし、宇宙部らしい活動を続けていってほしいと確信しています。どうか変わらぬ、より一層のご愛顧をよろしく願います。

米満 恭平

## 宇宙の豆知識

星の名前はどのように決まるの？

無数にある星々。特定の星を指定するにはどうしたらよいのでしょうか。星に名前をつける工夫をしたのは、ドイツの天文学者ヨハン・バイエルです。バイエルは1603年、星座の中で(おおむね)明るい星の順に、ギリシア文字の小文字を割り当てました。これが「バイエル記号」です。そのため、ある星座で最も明るい星は「 $\alpha$ 」座アルファ(α)星と呼ばれます。ギリシア文字で足りない場合には、ローマ字のアルファベットの小文字、さらに大文字が使われました。

バイエルの後、イギリスの天文学者ジョン・フラムステッドは、各星座の肉眼で見えるすべての星に対して、赤経の小さい順に1、2、3と数字をあて、さらに多くの星に名前を付けました。これがフラムステッド番号です。現在の星図ではフラムステッド番号とバイエル記号が併用されています。また場合により、さまざまな研究テーマに基づいた星表カタログの番号で、天体が指定されることがあります。

そして、1760年代、星雲星団など100個あまりの天体の星表(天体カタログ)を作ったのは、フランスの天文学者シャルル・メシエです。メシエは熱心に彗星を探していました。その際、見た目が彗星と紛らわしい天体をまとめたものが「メシエカタログ」です。メシエは生涯に13個の彗星を発見しました。

こうして、今もなお多くの天体が発見され、一つ一つに名前が付けられています。ぜひ、気になる天体を星表カタログで探してみてください。

## 宇宙からのささやき

10年前、月は詩や愛を語るインスピレーションだった。  
10年後、もう1つの空港になるだろう。

エマニュエル・メッサニー

## 宇宙の声

休日の静かな朝にクラシック音楽を聴きながらコーヒーを飲む。そんなロマンチックな朝を迎えることもなく、寮監さんの起床の放送で目が覚めます。朝からかなりテンション高めな音楽で一日がスタート。クラシックくらしいのテンションがいいのと思います。

クラシック音楽は多彩で、時代ごとにさまざまな表現方法をもっています。皆さんはどのようなクラシック音楽をイメージするでしょうか。冒頭の4つの音(ジャジャジャ・ジャーン)で有名なヘートウエン作曲の「運命」がぱっと浮かぶ人も多いのではないのでしょうか。宇宙関係の名前だけで考えるとグスターウ・ホルスト作曲の「惑星」も有名作です。実は地球以外の惑星たちは天文学ではなく、占星術から着想を得たものとされています。7曲の組曲となっており、第1曲から順に「火星、戦争をもたらす者」、「金星、平和をもたらす者」、「水星、翼のある使者」、「木星、快樂をもたらす者」、「土星、老いをもたらす者」、「天王星、魔術師」、「海王星、神秘主義者」という名前がついています。地球がないのは、占星術からきているためです。ホルスト自身は次のように語っています。「最近ひとつひとつの惑星の性格が、私に多くのことを感じさせるようになりましたので、占星学をかなりみっちり研究してきました。この世の中のすべては一個の大きな奇跡です。いや、むしろ宇宙そのものがひとつの奇跡なのです。」この言葉に何を感ずるでしょうか。「惑星」を聴きながら考えてみてください。コーヒーも忘れずに。

明日こそは、ロマンチックな朝を迎えられると信じています。

## ご愛読ありがとうございました。

毎号月初めの発行を目標に2022年8月より執筆をスタートしました。本号で21回目の発行となります。これまで、多くの方々にご愛読いただき、時には「いつもブログで読ませていただいています。」などの激励の言葉もかけていただきました。部長交代を機に、本紙の執筆も今月号で終了させていただきます。後輩たちが新たな形で宇宙の面白さを発信してくれることを期待しています。

これまで、ご愛読いただき本当にありがとうございました。今後も宇宙部の活動に変わらぬご協力をよろしくお願いいたします。